



年頭所感

誇りと自覚をもって

近森会グループ理事長 近森 正幸

高知県の医療崩壊

今日の日本の医療界、なかでも高知県は、臨床研修医制度の実施や、平成18年4月の診療報酬のこれまでにないマイナス改定により、医師不足とともに急性期を含む医療全体の地盤低下が生じ、医療崩壊の様相を呈している。こうした厳しい状況下で、近森会グループはこの四半世紀にわたり、「患者さんにとって、何がよい医療なのか」、「よい医療を提供するためには、どのような病院でなければならないか」を常に考え、時代の変化に並び、全力をあげて自己変革を行ってきた。

近森会の四半世紀の取り組み

顧みれば、平成元年の基準看護の取得とコンピュータシステムの稼働、近森リハビリテーション病院開設の三大プロジェクトに始まり、平成4年の本院新館建設、平成11年10月には外来患者の逆紹介を進め、地域医療連携を拡充。平成12年の心臓血管外科開設に伴うCCU、ICU24床の充実や、平成15年2月の地域医療支援病院認可、さらに平成17年には臨床研修病院管理型による初期研修医の採用、平成18年4月にはDPCによる一日包括払いと7:1看護をスタートさせた。また、10月には電子カルテが本格的に稼働し、昨年10月には近森オルソリハビリテーション病院が開院した。

平成20年の取り組み

平成20年は、近森病院においては後期研修医を中心とした医師、看護師、リハスタッフをはじめとしたコメディカルを充実し、急性期の医療機能をさらに高め、高齢者の根本治療を迅速確実にしない、できるだけ早く自宅に帰っていただくように努めなければならない。

秋にはサーバーの更新に伴いレスポンスの改善と、処置オーダーや指示受などの機能の向上を目的として、電子カルテ・システム(HR)のリニューアルが予定されている。

近森リハビリテーション病院、近森オルソリハビリテーション病院においても同様に医師、看護師、リハ

スタッフのさらなる増員によりリハビリ医療の質的な充実を図っていく。また総合心療センターにおいても精神科の急性期医療を推進し、よりよい精神科医療の提供を行っていききたい。

社会福祉法人ファミーユ高知は、3月30日に春野にある高知県立身体障害者リハビリテーションセンターの民間移管先となり、4月には上田真弓を施設長として運営を開始する予定となっている。今年末には新しい施設の建設も始まり、将来は身体障害者だけでなく、知的、精神を含む、すべての障害者の社会復帰、就業支援のセンターになる予定である。真の意味の障害者のノーマライゼーションを求めて、近森会グループの社会貢献の一環として、強力に事業を推進していききたいと考えている。

出来高払い時代の固定概念を排し

DPCによる一日包括払いが導入され、これまで以上に良質で効率的な医療を行わなければ、病院らしい病院として存続できない時代になったといえる。出来高払いの時代の固定概念から脱し、病院の医療機能を絞り込み、労働生産性を上げ、薬や診療材料などのコストを下げ、多職種によるチーム医療を行う必要がある。そして、迅速確実な根本治療と低栄養に対する栄養サポート、廃用に対するリハビリテーションを積極的に行なっていかなければならない。

病院のあり方までも変えて

いまという時代は、10～20年先に振り返って見ると、「医療の大きな転換点」だったと思われるのではないかと。戦後から連綿と続いてきたこれまでの医療から新しい世紀の高齢社会の医療へと大きく転換する、そのエポックメイキングの場所に、我々は立っているのだと思う。

これまで常識とされてきた急性期医療のあり方を変え、スタッフの構成を変え、病院のあり方までも変える時代になったといえる。わたしたち近森会グループは、高齢社会の医療の最先端にあって、自ら時代を切り開きながら進んでおり、スタッフ全員が実行しているのは自分であるという自覚と、誇りをもってイキイキと仕事をしたい。

「研究の楽しさや終わったときの達成感や自信を 研究メンバーに味わってもらいたい」

リハ病院 2階西病棟 主任 前田由紀



2007年4月よりリハビリテーション病棟の看護研究担当として、研究発表会の企画に携わってきました。教育委員会の研究担当をいう役割を与えられ、「研究の楽しさや終わったときの達成感・自信を研究メンバーに味わってもらいたい」と思い、研究メンバーと関わってきました。

看護研究は、日々の業務のなかでの疑問から出発し、研究計画書作成、データ収集・分析、論文作成というプロセスで行いますが、忙しいなか日程調整をしてこのプロセスを歩んでいくには大変な労力を要します。そのような地道な努力の成果を発表し、少しでも達成感を感じられたのではないかと思います。

発表会当日は、院内より106名、院外2名の参加者がありました。

発表は各院の専門性を知る良い機会であり、本院、第二分院、リハ病院各院の特色が出ており、どの発表も『質の高い看護を提供したい』という熱意が感じられました。また、プレゼンテーションの技術も年々高くなっているように感じました。

来年度も、研究の質・看護の質向上に向けて楽しく研究が行えるように、教育委員会の一員として関わっていきたくと思っています。

◇ 第1群 業務に対する看護師の意識に関する研究 ● 座長 近森リハビリテーション病院 4階西病棟 主任 岡部 美枝

1. 手術室における災害時避難対策の現状～手術室スタッフの災害意識調査を行って～
近森病院手術室 ○ 宮寄 悠太 川上 貴恵子 米津 佳奈 野本 洋子 中越 千陽 上田 秀影 岡村 美和

2. ドレーン固定について～ガーゼ使用の有無の比較検討～

近森病院新館 5階西病棟 ○ 山下 夏子 公文 積子 佐々木 美樹 田中 宏美 布美奈子

3. 当病棟における地域連携バスに対するスタッフの意識調査

近森病院新館 3階西病棟 ○ 大西 末子 高橋 協子 門脇 ゆい 小崎 隆 中谷 はるみ

4. CCUにおけるナースコールについて～看護師のナースコールに対する考えを通して～

近森病院 CCU 病棟 ○ 山中 恵 近澤 和代 山本 京子

◇ 第2群 看護の質の向上に関する研究 ● 座長 近森病院専門外来 主任 石嶺 里香



◀ 当日の発表者、本番を控えて朝いちばん。皆さん、ちょっと硬い表情ですが…、敬称略で後列左から、山下、西岡、正木、大西、中村、山中。前列は左から中川、武田、宮崎

5. 精神障害者への訪問看護における共同目標設定を通してみえてきたもの

訪問看護ステーションラポールちかもり ○ 武田 淳一 中井 有里 高芝 真智子 久保 博美

6. 入院診療計画書(2)の効果的な活用に向けて～患者アンケートを通して～

近森病院新館 4階東病棟 ○ 井上 麻美 今西 美嘉 大石 千恵子

7. ICU入室患者家族のニードについて振り返る～くも膜下出血発症からスパズム期を乗り越えるまで～

近森病院 ICU 病棟 ○ 正木 良枝 武市 知子 岡村 美希 杉本 知荷子

8. 勤務体制変更に伴う育児と仕事を両立する環境の変化と満足度～子育て中の看護師に焦点をあてて～

近森病院新館 6階東病棟 ○ 北代 美幸 上村 弘美 宇賀 清理亜

◇ 第3群 看護の視点に関する研究 ● 座長 近森病院 HCU 病棟 主任 山口 恵

9. 病棟内で反治療的なグループが見せる行動の分析と一考察

近森病院第二分院 4階病棟 ○ 西岡 真紀 佐竹 千恵 尾崎 博世

10. 入院患者の処遇を変えるとき看護師の判断の傾向～隔離を必要と感じた時、隔離の枠を緩める時に焦点を当てて～

近森病院第二分院 5階病棟 ○ 川村 真心 下元 伸之 和田 晴栄

11. 回復期リハビリテーション病院で働く看護師・介護士のADL向上に対する実態調査～移動・移乗動作の向上のためにどのような認識で介助を行っているのか～

近森リハビリテーション病院 3階東病棟 ○ 中村 絵美 松田 真弥 立野 文佳

12. FIMとスタッフの意識調査から入浴自立へのアプローチの視点を探る

近森リハビリテーション病院 4階西病棟 ○ 中川 正樹 田中 恵美 岡本 真由美 川村 真由美


聴診器

ナースの永遠のベストセラー

私を毎月悩ませるもの。それは看護師長の仕事のひとつ、勤務表づくりだ。

私の病棟では、30名の看護師から深夜6名、準夜6名、日勤7-8名を毎日組み合わせて1カ月の予定を作る。個々の希望、ベテラン～新人のバランス、そして委員会などを考慮して手書きで1日ずつ作っているのだ。いつもは、皆が充実したプライベートを送れるような勤務表にしたいと思う。でも途中で「希望ばかり!」「もう無理!」と毒づき、最後には「ごめん!許して」と謝りながら作っている。

ナースの永遠のベストセラーと脱めっこ



それは…

(作業中の姿は誰にも見せられません) スタッフの皆さん、文句も言わず?頑張り続けてくれて感謝です。

ある人が、「あれはナースの永遠のベストセラー。みんな穴が開くほど見つけてるから」と言っていた。あー、だからプレッシャーは大きいのです。平成20年もなるべくいい勤務表ができるように頑張ります。

でも誰か、入力するとポンと作ることのできるソフトを發明してください!

ICU(集中治療室) 看護師長 工藤 淑恵

第46回
地域医療講演会
実習篇

第2回
心臓ウェットラボ

間近で「ナマ」を学ぶ意義

2007年11月18日に、管理棟5階の全フロアを使って
ハートセンター・心臓血管外科部長 入江 博之



11月18日(日)に第46回地域医療講演会実習編と銘打って第2回心臓ウェットラボを行いました。

無菌豚の心臓を用いて、濡れた状態(ウェットなまま)でその解剖を勉強するという企画です。

今回は院外にも公開したところ、幡多けんみん病院、高知大学、高知医療センター、高知赤十字病院、生協病院などを含め、院外から25名が参加して下さり、総勢156名という第1回目の2倍規模の大きな実習会となりました。このため管理棟5階全フロアを会場とし、さらに前後半の2チームに分け、午前10時から午後4時までみっちり勉強しました。

内容は心臓解剖、心臓病理、PTCAやステントといったカテーテル治療、刺激伝導系のアブレーション、冠動脈バイパス、人工弁置換術などで、テーマ別に分かれたテーブルをローテーションするという方式で行いました。写真からも熱心な雰囲気を感じ取っていただけるかと思います。

盛会であったことを、インストラクターやスタッフそれに勉強する機会を大切にする熱意あふれる人達に感謝したいと思います。今回参加出来なかった他院の先生方から既に「第3回にはぜひ参加したいので知らせて欲しい」とのお申し込みをいただいています。また第3回を企画したいと思います。

▼準備段階から精力的に参加され、当日はインストラクターも務めた病理部・円山英昭部長



●ときに本と照らし合わせながら、「大学での解剖実習以来」ともなった無菌豚の解剖。「感動しっぱなしの一日」「優れた着想、卓越した陣頭指揮に感服」等、嬉しい感想メールもどっさり寄せられた



資格をとって 頑張ってます!

2007年の10月に新たに4名が診療情報管理士の資格を取得しました。これで診療支援部(医事課、企画情報室、診療情報管理室)43名のうち33名、7割強のスタッフが取得したことになります。医事課の入院請求担当者が全員取得したことで、現場と診療内容の確認が迅速に行えることがメリットとなっています。来年の診療報酬改正を見据えての分析も必要になってくるため、学んだ知識を現場で十分に活かして貰いたいと思います。

(管理部診療支援部長 寺田文彦)

診療情報管理士

新たに
4名

総勢
33名に



医療情報技師

診療情報管理士が診療情報の管理を大きな役割とするのに比べて、医療情報技師は電子カルテを中心とした医療情報システムそのものの設計・構築に参画して、保守・運用することが主



な業務となる。近森会では企画情報室の長山信夫主任と中山潤一さん二人の技師がこの資格をもって、「臨床の現場とシステムメーカーとの仲介役」を肅々と務めている。

●診療情報管理士は総勢33名。管理部医事課をはじめ、診療情報管理室、企画情報室のスタッフも取得。産休育休で勉強時間の取れなかったスタッフも、子どもの成長とともに少しずつ元の生活に戻るようになり、新たに4名も取得した。



ハッスル研修医・最終回

十を聞いて一を知る

研修医 中田 浩史



2006年の3月29日を境に、私の人生は大きく変わりました。この日は国家試験に合格していることが判明した日です。地元の保健所で手続きを済ませてから慌ただしく高知へ引っ越し、4月1日から晴れて近森会の一員となりました。

社会人になってからは戸惑いの連続でした。病棟から「患者さんが眠れな

いそうです」「お腹が痛いと言っています」と連絡があるたびに指導医の先生に泣きついていました。

そんな私もさすがに9カ月も経つと少しは“先生”っぽさが備わってきたのではないかと自惚れています。

要領の悪い私は、十経験して一を会得するのがやっとです。しかし近森病院では絶対数が膨大なため、会得する量も多くなると思います。腰を据えて患者さんと向き合っていると言い切れないかもしれませんが、様々な方に温かく見守られながら日々少しずつ成長している筈です。

今後も方々でご迷惑をおかけしていくと思いますが、飽きず諦めずご指導宜しくお願い致します。

東京ディズニーリゾートへ



▲わ～い遊ぶぞ～！医事課の長山さんと拓生くんの親子水入らず



▼6東瀛Nsママと一緒にハッピー！スヤスヤおねむの心深ちゃん、中内Nsの桜香ちゃんとひかるちゃん
▲施設用度課の野村さんは孫の天翔(てんしょう)くん



▲大人気のキャラクター「デール！」と一緒にピースで決めた！

恒例職員旅行

パラオ共和国へ



▲パラオの地ビールで乾杯。盛り上がった

●恒例の職員旅行・全13コースは、スペインやオランダ・ベルギー、太平洋上マイクロネシアの島からなるパラオ共和国や米国グアム準州。国内は南から北へ沖縄、湯布院、内子町、小豆島、京都、北関東、東北、北海道などへ、すでに500人強が参加しています。



▲ダイビングへ皆で出～発っ！エイエイオー！

◀シアストンネルというダイビングポイントで別世界の迫力に感～動っ(道中Dr.撮影)

スペイン周遊

アンダルシア地方へ

▶南部クラナダの丘にあるアルハンブラ宮殿は世界遺産。9世紀末の昔が原形の住宅、学校、浴場、墓地、庭園などを備えた複合施設の城塞



北海道

道東・道央へ
▶富良野に近い丘の町・美瑛に立つ樹齢80年のポプラの木は車のCMで有名になり、以来「ケンとメリーの木」として丘めぐりの定番スポットに。10月の真っ青な北の空を背景に

▼阿寒国立公園内にある摩周湖畔で。湖とは呼ばれるが、流入流出河川がないため法的には「水たまり」として認識されるらしい…



近森病院横北海道の旅第1班



看護部 キラリと光る看護 その34

やっと独り立ち…を助ける教育担当者

看護師の教育担当者を育てる厚労省の事業



看護師の募集は民間病院にとって相変わらず厳しい状況です。

7対1看護が導入されてからは特に年齢に関

係なくベテラン優秀ナースが国公立・大学・日赤などに引き抜かれる状況がおこっています。

「引き抜くのではなく、採用試験に受かった既卒者が自ら進んで来てくれるのだ」と云われればそれまで、働き甲斐のある、魅力ある病院づくりに勤む他ありません。

ところで厚労省は昨年から患者さんへの安全な医療の提供と新卒看護師の離職を防止するために「看護職員臨床実践能力向上推進事業」をはじめました。医療技術の高度化や患者さんの重症化・高齢化・在院日数短縮からくる複雑な臨床現場に適応が困難になっている新卒看護師の実践能力をサポートする看護師の教育担当者を育てる事業です。

早く言えばプリセプターを支援す

る教育担当者のことです。卒後3年目ぐらいでプリセプターに選ばれるナースは自分がやっと独り立ちしたかと思えば重責を担うことになり、その教育方法に悩むものです。今年からはその助け人が登場するわけです。

聖隷浜松病院 / 聖路加国際病院 / NTT 東日本関東病院 / 横浜市立大学附属病院 / 浦添総合病院 / 聖マリア病院など^{そうそう}全国21施設の中に近森会も加わりました。

臨床実習指導者研修とほぼ同じ単位のカリキュラムを勧めなくてはならず川村久美子教育委員長を中心とする講師・師長連中と、選ばれた6名の看護師は目の色が変わっています。と書きたいところですが実は非常に仲良く楽しく企画が実行されています。何ごとも“楽しい生き生き面”が無ければ継続しません。

1年の研修を終えた4月どんな看護観をもって現場のプリセプターたちとスクラムを組んでくれるでしょう。乞ご期待!

因みに2007年の新卒新人の離職率は0%で進行中です。

ホノルルマラソン完走



2007年12/9(日)、ハワイでホノルルマラソンに初参加しました。1年半前から通い始めたスポーツクラブで体を動かすことや走ることの楽しさを知り、インストラクターのアドバイスもあってホノルルマラソン初参加を決めました。ハーフすら走ったことのない私、25キロ地点から足が半分しか上がらなくなり、前に進みたい気持ちと足が全くついていかず見えないゴールの数時間は暗闇の中。同じように頑張っている多くのランナーの姿や沿道で応援する人達の声援に支えられ、42.195キロを何とか5時間39分で完走しました!音楽鑑賞・写真・F1観戦・風水が趣味の典型的な夜型インドア人間の私。スポーツと全く無縁だったけど人生って何があるかわからないから楽しいんですね。走るって気持ちいい~♪また行きたいです。(企画情報室 濱田 亜矢子)



アンパンマン

特技は、体操に前宙落ち…

診療情報管理室
鍵本 由紀



あ~懐かしい~。
あの頃…

ぜんちゅうお

鼻の下をかきつつ…

右上の写真の中に20歳の私がいま。さてどこでしょう?

答えは赤いトレーナーにほうかむりをし、鼻の下をかいている「悪役手下泥棒B」です。

というのも、学生時代にキャラクター・アクションチームにアルバイト

リレーエッセイ

として所属しており、こちらは高知県に営業に来たときの写真です(当時は岡山に住んでいました)。

今で言うと、イオンで週末あたり、ちびっ子向けにしているキャラクターショーですね。

今より体が動いた当時は、週6時間の無料(?)レッスンにさぼりがちに通り、週末はアンパンマンや、おじゃる丸のショーに出ていました。今では考えられないですね。

写真は夏の高知、野外での1日3ステージ。三重苦での「がんばれ!!ロボ

コンショー」。設営からステージ、サイン会まで同じメンバーが行うので、終わった頃には皆へとへとでした。写真はステージ前の、まだ元気が残っていた時だったと思います。

こういう職業柄、アニメ好きが多く、車内は四六時中アニメソングといった濃いキャラクターに囲まれ、アンパンマン体操や前宙落ち等を学びました(←受身に失敗したら本当に息が止まることを知りました。今では絶対にしたくありません……)。

今でもイオンなどで、所属したチームが営業に来ることがあります。メンバーはほとんど変わってしまい、気づかれることもありませんが、懐かしく見てしまいます。

よかったら皆さんも一度足を止めて、ショーを楽しんでみてくださいね。

脳卒中回復期リハ ・クリニカルパスのパス大会

2007年12月8日に、高知コンフォートホテルで

患者・家族が障害の回復をめざし、 同じ目的・情報を共有していく重要性

リハビリテーション科医師 小笠原 貞信



●敬称略で後列左より、久保田 聡美(本院総看護師長)、窪川 渉一(循環器内科科長)、西村 美保(リハMSW)、外部講師の千頭 葉子(在宅介護支援センター なの花 ケアマネージャー)、高橋 潔(パス委員長)、北村 志保(医事課)、三島 理恵(訪問リハPT)。●前列左より、中島 美和(OT科長補佐)、小笠原 貞信(本稿著者・リハ科医師)、田元 孝子(リハ外来師長)、矢野 和美(ST科長)、田村咲子(PT)

平成19年12月8日高知コンフォートホテルにおいて、県内の医療関係者も招き脳卒中回復期リハ・クリニカルパスのパス大会が実施されました。

平成19年10月に近森オルソリハビリテーション病院が開院し、近森リハビリテーション病院では主に脳卒中の回復期を担うこととなりましたが、医療者と患者・家族が障害の回復をめざし同じ目的・情報を共有していくことはこれからも中心となる課題と思われるます。

クリニカルパスによる医療標準化と連携の流れは急性期にとどまらず、厚労省により連携パスの導入が進められているように、今や在宅も含めて全医療的な潮流となっています。

今回参加して下さった方々からも多くの質問があり、関心の高さが窺われました。

うまく答えられない点もありましたが、このように急性期・回復期・維持期が垣根を越え、また医療機関の壁も越えて議論するという思いがけない貴重な体験ができました。今後は連携パス作成のためクリニカルパス委員会を中心として、さらに関係機関との議論を進めていきたいところです。

右は発表担当だったが、当直勤務のため当日の写真撮影に加われなかった中山 衣代(リハ病院副院長)



講演会のお知らせ

第47回地域医療講演会

肺がん検診

高知大学名誉教授
吉田祥二先生

日時 平成20年1月11日(金)
18時30分～
会場 高知パレスホテル

第48回地域医療講演会

感染対策セミナー

エビデンスに基づいた 病院感染防止の 新しい考え方

東京医療保健大学教授
大久保 憲先生

日時 平成20年1月12日(土)
10時00分～
会場 コンフォートホテル
高知駅前

続 管理部長の康タン **こだわり** 料理 23

お正月スペシャル

川添 昇



うにイクラ丼



画 第二分院栄養科(臨床栄養部)科長 吉田 妃佐

敬愛する東京農大の小泉武夫先生の手にかかると何でも丼にしてしまわれる。先日の日経新聞の先生のコラムには、何と缶詰の中味をアツアツのご飯に載せるだけという超カンタンな丼が紹介されていた。それでコラム1本を仕上げてしまうというなかなかのお方だ。

「正月らしい料理を」という編集室の指示だが、手の込んだおせち料理などは素人の私にはムリである。そこで簡単な丼物となってしまった。(※「正月ならではの料理を」との希望は見事裏切られたが、**ウニとイクラをたっぷりのつける**のだから、これはやっぱり「ハレの日」に相応しい選択とされます…『ひろっぱ』編集室)

【材料】

温かいごはん・ウニ・イクラ。
かいわれ大根・モミのり・白いりゴマ。
すべて適量で。

【作り方】

- ① ご飯にモミのりとごまを混ぜ、小ぶりの丼か、お茶碗に盛る。あくまでも品良く!
- ② かいわれ大根を2~3cmに切ってご飯に散らし、イクラとウニをのせる。かいわれ大根は少し見えても、ご飯は決して見えないようにイクラを豪華にびっしりのせたい。

【食べてみる】

酒の席の最後のシメと思ってイソイソと台所に行って作る。「正月だし、ちよっぴりぜいたくも良いではないか」などと言い訳しつつ、口に入れると濃厚なウニとイクラの旨味にまず出逢い、小泉先生風の表現だと唾液がピュルピュル出てきて、かいわれ大根のカラ味が加わり、のりとゴマがアクセントとなったご飯がからみついてくる。旨い!もうたまりません。が、待てよ。こんな美味しい丼をワシワシ食べて酒のシメにするにはもったいない。リハ病院の森山事務長からずっと前に拝領した錫の酒器で冷たい吟醸酒を飲んでみた。ウーム。あとの感想は言わずもがなである。しあわせしあわせ……

皆さん今年もいいお年になりますように。

2007 近森会グループ忘年会

▼近森会グループ MVP は11人が受賞。後列の左から順にリハ病院今井院長、氏原さん、オルソ尾崎総看護師長、オルソ小松事務長、奥田さん、近森理事長の右に川村師長、和田さん、青木師長、松本さん、前列左からリハ病院宮本副院長、村岡さん、佐野さん、寺田部長



▼平成19年度コミュニケーション認定バッジ授与式も執り行われ、片岡委員長より代表の本院薬剤部・



遠藤恵津子さん授与。各部署から推薦された26人は、それぞれに理想的で、周りに元気を振りまくなどの、親しみ溢れる対応が評価されたもの

「どうしても見送りたい！」と車イスで厚着の患者さんも数人。19時半の玄関西には50人超の見送りスタッフも



▲ハートセンター MVP に輝いたのは左から、シーメックの明坂慎史さん、手術室の桑原理沙さん、4西の野瀬秀二さん、検査部の池内梨沙さん、オルソPTの田中健一朗さん。後列には記念品を授与した左から入江部長、川井部長、窪川科長の皆さん



コミュニケーション委員会主催のコンサート。合笑団の皆さんがおいでくださるようになって丸10年だとか

恒例 高知コーラス合笑団

「クリスマス (Christmas)」は、イエス・キリストの降誕を祝う「降誕祭」で、「Christes Maesse」つまり「キリストのミサ」という意味だそうです。

さて、近森会グループでは12月15日(土)に毎年恒例の高知コーラス合笑団のクリスマスコンサートが行われ、120名超のご参加をいただきました。合笑団の迫力のある歌声に、座る

場所を探すことが困るほどの盛況ぶりでした。「若葉」で開演、「赤鼻のトナカイ」ではトナカイとサンタに仮装した団員の方の演技に笑いと大きな拍手が沸きおこりました。

最後に近森病院入院中の車椅子に乗った男の子から花束贈呈が行われ、温かい雰囲気の中でエンディングを迎えることができました。高知コーラス合笑団の方々ははじめ、関係スタッフの皆さまに感謝申し上げます。

(文と写真 管理部医事課主任 木村徹)



ピアノ伴奏の吉岡勢津子先生に花束贈呈



2007年11月30日 長崎へ是真会の皆さん出発

2007年11月30日の早朝、近森リハビリテーション病院周辺や近所の小川町公園を黙々と清掃する集団があった。旅立つ朝にせめて何かできないかと、自分たちで考えたらしい。折からの落葉を袋いっぱいになるまで懸命に掃いて集める姿に、研修の成果の一端を見たのは私だけではなかったらうと思う。長崎リハビリテーション病院の友に幸あれ!! (H.M)

● 1月の歳時記 ●

侘助 (わびすけ)

文と画・訪問看護ステーション 林 良香



花が一重で、花数も少なく、いかにも侘びた姿を示すところから、この名があるそうです。

また、千利休と同じ時代を生きた、茶人侘助がこよなく愛したことから、この名が付いたとも言われています。

多くの種類があり、白侘助、紅侘助、初雁、胡蝶侘助などがよく知られています。簡素で趣のある花です。

初めての国体

リハ病院 2階西病棟 介護士
多田 佳代
(向かって一番左)

2007年10月に国民体育大会が秋田県で開催されました。私はバドミントンを始めて12年が経ち初めての国体へ出場することができました。

国体の体育館前で撮った写真を紹介したいと思います。会場は独特の雰囲気、手は震え顔は引きつるといった緊張はすごいものでした。

今回は2回戦敗退ですが、次は今回以上の結果が出せるよう日々の練習に励みたいと思います。まずは、県代表に選ばなければいけません。



シリーズ●クリニック探訪29 **依光内科クリニック**

tel. 088-826-7050
fax. 088-826-7052

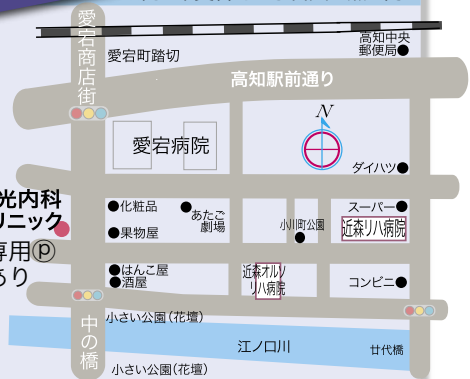
高知市愛宕町一丁目交差点の南

高知市生まれ。院長・依光聖一。S23年9月17日。趣味は軽音楽鑑賞。



待合室で。依光院長は高知県骨髄バンク推進協議会の会長も務めている

依光内科
クリニック
専用
あり



患者様ができる限り抵抗の少ない形で、「難病」を受け止められるような診療と説明を常に心がけております。年齢的な理由などで移植は難しいが、内科的に診ていく必要のある患者様などとともに自分も病気と向き合う覚悟です。これまで修得してきた医療に関する知識を出し切り、日々進歩する医学に遅れを取らぬよう自己研鑽に努めております。



左のトイレは院長の密かな自慢は透明感のあるブルーのガラス製

第15回 高知県骨髄移植講演会 & ドナー登録会

どなたでも自由にご参加を 入場無料

いのちを救えるのはあなただけかも知れない
平成20年 2月11日(祝日の月曜) 13時~RKCホールで

※詳しくは依光内科クリニックへお尋ね下さい

- ①ドナー登録から提供まで (高知医療センター 血液・輸血科 科長 今井 利)
- ②骨髄移植の実際 (高知大学 医学部 血液・呼吸器内科 講師 砥谷 和人)
- ③骨髄提供者からのメッセージ 「患者さんに思いを馳せて」
- ④移植経験者による発表 「やさしさでしか救われない命」
- ⑤感謝状贈呈式 会長 依光聖一 など

主催：高知県骨髄バンク推進協議会
後援：高知県・高知県医師会・県内ライオンズクラブ

2007年11月の診療数	近森会グループ	
	外来患者数	17,548人
	新入院患者数	802人
	退院患者数	756人
	近森病院	
	平均在院日数	14.50日
	地域医療支援病院紹介率	89.33%
	救急車搬入件数	438件
	うち入院件数	211件
	手術件数	359件
うち手術室実施	246件	
全身麻酔件数	153件	

企画情報室

編集室通信

▼真新しいカレンダーやスケジュール帳に最初の書き込みをする時、いくつになっても心の背筋(?)がしゃんとする気がします。大小の夢や決意や、それから、望みというよりは願いのようなものが私たちをそんな気持ちにさせるのでしょうか? 2008年子年。ねずみの一歩のようなささやかな歩みでも、元気に軽やかに前進して行きたいです!(ひよん)

図書室便り

(2007年11月受入分)

- ・HANDBOOK OF CLINICAL NEUROLOGY 3rdSeries Vol.83,84 PARKINSON DISEASE AND RELATED DISORDERS PART.I II / WILLIAM C.KOLLER(他編集)
- ・HANDBOOK OF CLINICAL NEUROLOGY 3rdSeries Vol.85 HIV/AIDS AND THE NERVOUS SYSTEM / PETER PORTEGIES(他編集)
- ・HANDBOOK OF CLINICAL NEUROLOGY 3rdSeries Vol.86 MYOPATHIES /FRANK L.MASTAGLIA(他編集)
- ・WORLD HEALTH ORGANIZATION CLASSIFICATION OF TUMOURS PATHOLOGY& GENETICS TUMOURS OF THE LUNG,PLEURA,THYMUS AND HEART / WILLIAM D.TRAVIS(他編集)
- ・最新整形外科学大系 23 スポーツ障害 / 越智光夫(専門編集)
- ・ホントのところがよくわかる 感染症診療のベーシック・アプローチ Q&A 形式で解き明かす臨床のコツ / 大曲貴夫
- ・アレルギー性副作用 - 実用編 - 薬剤アレルギーの臨床解析と起因薬同定法を中心に / 宇野勝次 《寄贈本》
- ・医療関連死を科学する オーストラリア・ビクトリア州における行政解剖制度の調査報告 / 全日本民主医療機関連合会視察団(編著) 《別冊・増刊号》
- ・別冊医学のあゆみ 癌抗体療法 / 島清彦(編集)
- ・からだの科学増刊 健康エクササイズ / 山本利春(編集)
- ・臨床スポーツ医学 2007 vol.24 臨時増刊号 慢性疾患に対する身体活動のすすめかた QOL 向上への新しい具体策 / 臨床スポーツ医学編集委員会(編集)
- ・NHK きょうの健康 転倒予防の簡単筋トレ 脚を鍛えて若返る! / 久野野也
- ・INFECTION CONTROL 2007 年秋季増刊 いまさら聞けない感染対策の常識 完全版 / 藤田烈(編著)
- ・泌尿器ケア 2007 年冬季増刊 しなきゃならない! しちゃいけない! 泌尿器ケアの Do & Do Not / 林正(監修)